

学校法人 金井学園
福井県医療福祉専門学校
こども・介護学科 保育士・幼稚園教諭コース

2024年度入学生 授業概要

(シラバス)

氏 名

カリキュラムの変更や担当講師の事情によっては、実施時期・内容が、変わることがあります。

1年生 前期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
情報リテラシーと処理技術	1	1	前田
英語コミュニケーション	2	1	竹内
健康科学	3	1	杉田
スポーツ(実技)	4	1	杉田
保育原理	5	1	佐竹
教育原理	6	1	栗原
こども家庭福祉	7	1	石田
社会福祉論	8	1	水野
社会的養護Ⅰ	9	1	水野
発達心理学	10	1	松山
こどもの指導法「言葉」	11	1	佐竹
こどもの指導法「造形表現」	12	1	辻岡
こどもと体育	13	1	杉田
こどもの指導法「リズム表現」	14	1	杉田
こどもと造形	15	1	松山
乳幼児保育Ⅰ	16	1	松山
こどもとミュージックⅠ	17	1	濱本
レクリエーションの基本	18	1	杉田
ピアノⅠ	19	1	濱本

1年生 後期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
憲法	20	1	水野
文章表現	21	1	佐竹
社会的養護Ⅱ	22	1	水野
教職論	23	1	栗原
こどもの保健	24	1	佐藤
こどもの発達と家庭支援	25	1	石田
教育課程論	26	1	栗原
保育内容総論	27	1	佐竹
こどもの指導法「人間関係」	28	1	佐竹
こどもとミュージックⅡ	29	1	濱本
福祉レクリエーションⅠ	30	1	松山・杉田
ピアノⅡ	31	1	濱本
保育実習指導ⅠA	32	1	杉田
保育実習ⅠA	33	1	保育専任
こどもの指導法「音楽表現」	36	1	北村

通年開講科目			
科目名	頁	学年	担当
サポート講座Ⅰ	34	1	保育専任
Welfare TimeⅠ	35	1	担任

2年生 前期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
こどもの指導法「音楽表現」	36	2	北村
こどもの食と栄養	37	2	松山
こどもの指導法「環境」	38	2	佐竹
こどもの指導法「健康」	39	2	杉田
こどもの指導法「言語表現」	40	2	佐竹
こどもの健康と安全	41	2	小林
特別支援・保育概論	42	2	松山
子育て支援	43	2	佐竹
福祉レクリエーションⅡ	44	2	杉田
ピアノⅢ	45	2	濱本
保育実習IB	46	2	保育専任
保育実習指導IB	47	2	小林
保育実習Ⅱ	48	2	保育専任
保育実習指導Ⅱ	49	2	佐竹
乳幼児保育Ⅱ	50	2	松山

2年生 後期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
事例検討	51	2	保育専任
こども家庭支援論	52	2	佐竹
こどもの理解と援助	53	2	松山
ミュージックケア	54	2	宮川
保育・教職実践演習	55	2	松山
福祉レクリエーションⅢ	56	2	杉田

通年開講科目			
科目名	頁	学年	担当
サポート講座Ⅱ	57	2	保育専任
Welfare TimeⅡ	58	2	担任

授 業 概 要

授業科目名 情報リテラシーと処理技術	授業の種類 演習		授業担当者 前田 信子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>レポート:最新の情報セキュリティインシデントについて理解し適切な対応ができるようになる。</p> <p>スクーリング:ワープロ・表計算ソフトの基本操作ができるようになる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レポート対策(情報化社会、コンピュータの発展) 2 レポート対策(ハードウェア、ソフトウェア) 3 レポート対策(情報ネットワーク、インターネット) 4 面接授業(Windowsの基本) 5 面接授業(文書作成の基本①書式設定) 6 面接授業(文書作成の基本②図形・表) 7 面接授業(文書作成の基本③ページ設定) 8 面接授業(表計算の基本①書式設定) 9 面接授業(表計算の基本②計算式・関数) 10 面接授業(表計算の基本③グラフ機能) 11 面接授業(表計算の基本④データベース機能) 12 単位認定試験・科目試験対策 13 科目試験対策 14 科目試験・試験対策 15 筆記試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>情報リテラシーと処理技術</p>		<p>配本テキスト</p>	<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席状況・授業態度・レポート・筆記試験の総合評価</p>

授 業 概 要

授業科目名 英語コミュニケーション	授業の種類 演習		授業担当者 竹内 眞佐子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>近年では、幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、現場での英語力も必要となっている。したがって本授業では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身につけることをねらいとする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>英語表現の基礎となる文法事項や基本構文の復習及び演習を行う。またさまざまな生活課題を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方を学習する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに、英語で書かれた物語や子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の文法 (動詞 形容詞 副詞)・手遊び・歌 2. 英語の文法 (比較 代名詞 疑問詞)・手遊び・歌 3. 英語の文法 (進行形 完了形 受動詞)・手遊び・歌 4. 英語の基礎構文 (5文型)・(修飾語句)・折り紙の折り方の説明 5. 課題1 リーディング 大意把握 6. 課題1 リーディング 精読① 7. 課題1 リーディング 精読② 8. 課題1 リーディング 精読③ 9. 課題2 リーディング 大意把握 10. 課題2 リーディング 精読① 11. 課題2 リーディング 精読② 12. 課題2 リーディング 精読③ 13. 総復習 14. 総復習 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・英語コミュニケーション</p> <p style="text-align: right;">豊岡配本テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>学習状況の確認:レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し、評価する。 (レポート評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価:科目試験の結果により判定し、評価する。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 健康科学	授業の種類 講義		授業担当者 杉田 美瑛
授業の回数 8回	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 健康科学のテキストにより科学的な健康づくりを学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、健康な生活を送ることができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活設計 2. 運動の基礎理論 3. 運動処方① 4. 運動処方② 5. 健康と運動、食生活 6. 身近な病気(～食中毒・がん～) 7. 身近な病気(～薬害・エイズ～) 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 「健康科学」(長谷川定宣)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 科目試験の結果により判定し評価する。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 スポーツ(実技)	授業の種類 実技		授業担当者 杉田 美瑛
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 各種スポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康保持・増進を図ることができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス① 3. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス② 4. ヨサコイ① 5. ヨサコイ② 6. ヨサコイ③ 7. バレーボール①基本練習・応用練習・ゲーム 8. バレーボール②ゲーム・審判 9. バドミントン 基本練習・応用練習・ゲーム 10.卓球 基本練習・応用練習・ゲーム 11.バスケットボール①基本練習・応用練習・ゲーム 12.バスケットボール②ゲーム・審判 13.ニュースポーツを学ぶ 14.ウォーキングとその効果について 15.試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 「健康科学」 豊岡短期大学配本テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度20%・課題10%・その他20% 試験50% 上記の4領域の配分割合のより100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 保育原理	授業の種類 講義		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育の意義、歴史の変遷、保育環境、方法などについて学び、保育における健康・安全・家庭や地域との連携などについての幅広い知識を習得すると共に、自らのこども観、保育観を育んでいく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 保育の意義とその思想、歴史と現状及び保育の特性・目標・方法・環境について基本的な知識を学ぶと共に、家庭地域との連携について理解する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 保育の歴史と思想を知り、保育の場、方法及び内容について理解でき、保育士の役割について考えることができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育を学ぶということ 2. 子ども理解 3. 子ども観・保育観 4. 子どもの理念を支える法規 5. 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能 6. 保育の場 7. 保育の目標と内容 8. 保育の方法 9. 子どもの発達と保育 10. 保育の計画と評価 11. 子どもの育ち・学びの連続性 12. 日本の保育の現状と課題 13. 子育て支援 14. 海外の保育事情と保育者のあり方 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 つながる保育原理 (みらい)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】 佐竹友美:職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 教育原理	授業の種類 講義		授業担当者 栗原 美幸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 教育の課題と可能性についての理解を深める。また、学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶ。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 教育の課題と可能性について理解し、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解している。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性 2. 世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践 3. 世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践 4. 日本の教育思想 5. 子どもの発達と教育 6. 子どもの権利 7. 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8. 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9. 世界における教育の歴史的変遷 10. 日本における教育の歴史的変遷 11. 公教育制度、義務教育制度 12. 教師という仕事、教授法 13. 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14. 教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 「教育原理」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(授業中に実施する確認テスト、提出物)と試験の総合評価とする</p>	
<p>【担当講師】 栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こども家庭福祉	授業の種類 講義		授業担当者 石田 ひろみ
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 こども家庭福祉制度の発展過程および現在の法制度、こども家庭福祉の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。また、保育士の役割とこども家庭福祉における相談援助活動について理解する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 こどもの権利を基盤としたこども家庭福祉にかかわる法制度とこども家庭福祉の現状を理解したうえで、こどもや家庭に対する相談援助活動について学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 こども家庭福祉にかかわる法制度と援助活動について理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こども家庭福祉の理念と概念 2. こども家庭福祉の歴史的変遷 3. こども家庭福祉の制度と法体系 4. こども家庭福祉行財政実施機関 5. こども福祉施設等・児童家庭福祉の専門職 6. 少子化と子育て支援サービス 7. 母子保健と児童の健全育成 8. 児童虐待・ドメスティックバイオレンスの防止 9. 社会的養護 10. 障害のある児童の地域の暮らし 11. 少年非行などへの対応 12. ひとり親家庭 13. こども家庭福祉の推進と次世代育成支援 14. 保育・教育・療育・保険・医療との連携 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・児童の福祉を支える子ども家庭福祉 萌文社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 石田ひろみ：職歴一小学校教諭歴1年、幼稚園教諭歴8年 資格一保育士、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
社会福祉論	講義		水野 正伸
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回	30時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】 福祉実践の根底となる社会福祉の理念を学び、実践において必要な社会福祉の制度や動向を理解し、実践基盤の構築につなげていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉の法的基盤や歴史の変遷を通して、社会福祉の理念と意義を学ぶ。また、社会福祉の制度などを理解し、権利擁護などの社会福祉の実践を学ぶ。さらに、相談援助を中心とした専門技術を理解し、地域福祉の推進など現代の社会福祉の動向を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の歴史の変遷を理解するとともに、その意義や支援の視点を理解する。 ・社会福祉の制度とその仕組みについて理解する。 ・社会福祉における相談援助の意義と方法を理解する。 ・社会福祉における利用者の保護とその仕組みを理解する。 ・社会福祉の動向と課題について理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と課題①－社会福祉の概念について法的基盤から学ぶ 2. 社会福祉の理念と課題②－福祉ニーズおよび社会参加とは何かを学ぶ 3. 社会福祉の理念と課題③－自立と平等の支援のあり方について学ぶ 4. 社会福祉の歴史の変遷①－社会福祉の歴史的な取り組みについて学ぶ 5. 社会福祉の歴史の変遷②－福祉的支援の担い手について学ぶ 6. 社会福祉と各分野の福祉－社会福祉と各分野の福祉とのつながりと、支援の基本的な考え方について学ぶ 7. 利用者の権利擁護－利用者の権利擁護とその実践について学ぶ 8. 社会福祉の制度①－社会福祉の法律について学ぶ 9. 社会福祉の制度②－社会福祉における国および地方公共団体の役割と実施機関について学ぶ 10. 社会保険－社会保険の内容について学ぶ 11. 利用者を保護する仕組み－社会福祉における利用者保護の仕組みについて学ぶ 12. 社会福祉の相談援助①－相談援助の意義と原則について学ぶ 13. 社会福祉の相談援助②－相談援助の方法と技術について学ぶ 14. 社会福祉の動向と課題－少子高齢社会の課題と在宅福祉・地域福祉の推進を学ぶ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『生活事例からはじめる 社会福祉』青踏社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 社会的養護 I	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 社会的養護の歴史的変遷を通して、その意義を学び、社会的養護の体系を学ぶ。また、子どもの権利を学び、援助者としての倫理と権利擁護について学ぶ。さらに、自立支援など社会的養護の原理を学び、社会的養護の現状と課題を理解し、施設養護と家庭養護の実状や特徴を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「社会的養護の意義と歴史的変遷」「社会的養護の体系」「社会的養護における児童の自立支援」「社会的養護の現状と課題」をテキストを用いて学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の歴史的変遷を通して、その意義を理解する。 ・子どもの権利を学び、支援者の倫理と権利擁護を理解する。 ・社会的養護の制度と実施体系を理解する。 ・社会的養護の対象と形態、関係する専門職等を理解する。 ・社会的養護の現状と課題を理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と変遷 2. 子どもの人権擁護と社会的養護 3. 家庭の機能と社会的養護 4. 社会的養護の基本原則Ⅰ 養育－日常生活支援 5. 社会的養護の基本原則Ⅱ 保護－自己実現に向けた支援 6. 社会的養護の基本原則Ⅲ 子どもあることへの回復－治療的支援 7. 社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力－自立支援 8. 社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成－生と性の倫理 9. 社会的養護の制度と実施体系 10. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ－乳児院と児童養護施設 11. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ－障害児の入所施設 12. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ－児童自立支援施設と児童心理治療施設 13. 家庭養護の特徴・対象・形態－里親とファミリーホーム 14. 社会的養護の現状と課題 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 発達心理学	授業の種類 講義		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 人の心と身体がいつの時期にどのように変化するのか、その特徴を学び、それぞれの時期の問題、課題、乗り越え方などを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 子どもを理解するために、胎児期から老年期までの人の心と身体の変化について学ぶ。子どものみならず、家庭への支援につながることを理解する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 生涯発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもや家庭への理解を深め、保育の場で活かすことができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学とは 2. 胎児期の発達 3. 乳児期の発達① 4. 乳児期の発達② 5. 幼児期の発達① 6. 幼児期の発達② 7. 児童期の発達① 8. 児童期の発達② 9. 青年期の発達① 10. 青年期の発達② 11. 青年期の発達③ 12. 成人期・高齢期の発達① 13. 成人期・高齢期の発達② 14. 実践の評価 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・よくわかる発達心理学 ナツメ社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「言葉」	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児期の言葉の発達過程および、保育者の言葉の在り方を理解することを目的とする。また、その言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話聞く姿勢などについても取り組む。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>乳幼児期の言葉の発達やその仕組み、子どもへの先達となる保育者の言葉の在り方、姿勢などについて学習を深めるとともに、言語教材を使用する取り組みから、文字への興味、言葉の持つ楽しさなどを探求し、言葉を獲得するとはどういうことなのかを解説する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>①乳幼児期の言葉の獲得過程の理解②子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解③子どもの手本となる保育者の言動の在り方を認識し、理解④乳幼児の一番身近な存在である母親の言葉掛けから学び、意欲を引き出す言葉掛けの在り方理解⑤実践を通して言語教材が持つ意義を認識、理解</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育と言葉 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 3. 言葉を豊かに育む活動(1) 4. 言葉を豊かに育む活動(2) 5. 保育者と言葉のあり方 6. 言葉を豊かに育む活動(3) 7. 言葉を豊かに育む活動(4) 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携・試験 単位認定試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>事例で学ぶ保育内容 領域 言葉 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・試験・提出物の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美:職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「造形表現」	授業の種類 演習		授業担当者 辻岡 世紀子
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感などの基礎的な知識及び技能の3つ(えがく・つくる・造形あそび)を領域を通して体験的に習得する。また、教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>幼児造形の指導・援助者として形や色などの造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現方法から想像力を高め、体験的に理解する。それらの特性を活かして創意工夫しながら制作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子ども達が主体的に造形を生み出す働きかけの活動について学び、そこには充実感や達成感が伴う事を理解する。そのための必要な素材や教材などの特性を理解し、活用する知識や技術を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育要領における「表現」領域及び小学校との連携 2. 造形教育の思想と指導法の推移及び子どもの発達段階における表現の特徴 3. こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価 4. 教材研究を伴う制作Ⅰ(えがく) 5. 教材研究を伴う制作Ⅱ(つくる) 6. 教材研究を伴う制作Ⅲ(造形あそび) 7. 実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび) 8. 保育展開指導法と情報機器及び教材の活動 まとめ・試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>造形表現論 豊岡・配本テキスト 保育をひらく造形表現 萌文書林 イラストで読む! 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 はやわかりBOOK (学陽書房)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・試験・提出物の総合評価とする。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 辻岡世紀子:職歴—保育士歴29年、レクリエーション・インストラクター養成講習会講師歴26年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、日本レクリエーション協会公認指導者</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもと体育	授業の種類 演習		授業担当者 エーアイきつずくらぶ・杉田 美瑛
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 こども達が能動的に取り組み、多くの体験ができるよう環境を設定するなど、こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢や環境に応じた知識・技術を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 固定遊具、鬼ごっこ等についての知識を深め、こども達が安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方、安全性について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び(野外、室内での集団遊び、固定遊具遊び大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊びについての指導法と援助の仕方、安全性について習得する</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 野外、自然での幼児の遊び 2. 固定遊具・鉄棒での幼児の遊び 3. 操作性遊具を使った遊び(ボール・縄・フープ) 4. 大型遊具を使った遊び(マット・跳び箱・平均台) 5. サーキット遊び 6. 鬼ごっこ遊び 7. 伝承遊び 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 「こどもと体育 I」配本テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度40% 試験60%</p> <p>上記の2領域の配分割合のより100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「リズム表現」	授業の種類 演習		授業担当者 杉田 美瑛
授業の回数 8回	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 こどもにとっての表現について、その意義や効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるようにしていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 表現に関する知識や保育技術を修得し、実践を通じた感性や人間力が養われている。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」についての基本的な考え方 2. 基礎リズム 3. 基本動作 4. タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 5. 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 6. 領域「表現」と小学校教科等とのつながり 7. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り 8. リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り <p>試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館) 子どもがときめく名曲&人気曲でリトミック 自由現代社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 受講態度10%・試験その他90% 上記の配分割合により100点満点で評価し60点以上を合格とする。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 こどもと造形	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもの成長発達との関連性を踏まえながら、5領域のひとつである「表現」について理解を深める。造形表現活動における保育者としての援助の在り方や、活動が豊かに展開できるような知識、技術を身につける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもの成長発達に応じた表現活動について、実践をもとに理解する。また、画材や用具の特性を利用した製作や個々の子どもへの援助の方法を考察していく</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>素材や教材の特性や扱い方、活用する知識や技術を理解し身につける。子どもたち自らが、造形を通じた自由な表現活動を楽しみ、充実感や達成感を味わうことができるような働きかけを学ぶ。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 造形表現と子どもの成長発達との関連性 2. 子どもの感性と造形表現 3. 素材で遊ぶ①(紙・絵の具) 4. 素材で遊ぶ②(自然物) 5. 素材で遊ぶ③(廃材・段ボール) 6. 色と光について 7. 造形表現活動のための準備、配慮、援助について 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形表現論 豊岡テキスト ・保育をひらく造形表現 萌文書林 ・イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK 学陽書房 		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 乳幼児保育 I	授業の種類 講義		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児の成長や発達について理解し、乳幼児保育の意義・目的を知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>乳幼児保育の歴史や意義を知るとともに、乳幼児の発達と生活の内容を理解し保育の技術を養う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>乳幼児保育の意義や、家庭と保育者の関わりについて理解し、乳幼児の成長のポイントを押さえながら、保育を担う者としての心と知識と技術を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の意義・目的と役割 2. 乳幼児保育の現状と課題 3. 乳幼児保育の実際① 4. 乳幼児保育の実際② 5. 身体機能の発達と保育 6. 基本的な生活習慣獲得と保育 7. 対人関係の発達と保育 8. 満1歳未満児の保育 9. 1歳児の保育 10. 2歳児の保育 11. 乳幼児保育における環境 12. 乳幼児保育における計画・記録・評価 13. 乳幼児保育と連携・協働 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 やさしい乳児保育 青踏社</p> <p>ここがポイント！3法令ガイドブック-新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解</p> <p style="text-align: right;">フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種：職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもとミュージック I	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育の場での音楽表現活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識及び技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 楽譜を読むために必要な知識を学び、基礎的教則本バイエルを使用して、弾き歌い、伴奏法につなげるためのピアノ演奏技術を習得する。また多くの童謡を知り、音楽活動の楽しさや喜びを味わう。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 弾き歌い、伴奏ができることを目指し、ピアノの基礎技術を習得する。 音楽基礎理論を習得し、楽曲を正しく理解し、表現する力をつける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 ピアノのしくみと基本的な奏法 2 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 姿勢 手の形 指づかい リズムと拍 テンポ 3 ピアノ実技の基礎 レガート奏法 4 ピアノ実技の基礎 両手演奏 ユニゾン 5 ピアノ実技の基礎 両手演奏 左右で異なるメロディ・反進行 6 ピアノ実技の基礎 楽曲形式 音楽用語と記号 7 楽譜の読み方と演奏 こどものうたを使ったソルフージュ① 8 楽譜の読み方と演奏 こどものうたを使ったソルフージュ② 9 楽譜の読み方と演奏 歌唱と表現あそび① 10 楽譜の読み方と演奏 歌唱と表現あそび② 11 ピアノ実技のステップアップ 正確、確実に演奏(楽譜を見ながら 指番号 鍵盤) 12 実技試験(バイエル課題曲) 13 ピアノ実技のステップアップ 正確、確実に演奏(楽譜を見ながら 指番号 鍵盤) 14 ピアノ実技のステップアップ スムーズな演奏 15 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 子どものための音楽表現技術 萌文書林 ポケットいっぱいのおうた 実践こどものうた 簡単に弾ける 144選 教育芸術社 子どもがときめく名曲&人気曲でリミック 自由現代社 こどもと音楽表現 豊岡短期大学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・授業態度・筆記試験の総合評価。 2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。</p>	
<p>【担当講師】 濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
レクリエーションの基本	演習		杉田 美瑛
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30 時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>心を元気にするというレクリエーションの主旨を基に楽しさや心地よさを活用して人々を支援するための考え方や技術を学び、レクリエーション支援の基礎を理解・体得し、レクリエーションの意義を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>レクリエーション概論、心の元気づくりの理論、レク支援の理論、レク支援方法を理論と実技を織り交ぜながら手段であるレク活動を有効に活用するための技術について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>レクリエーション支援と手段としてのレクリエーション活動について学び、人の心の理論を根拠に、ホスピタリティを通したコミュニケーション技法とアイスブレイキングの技術を基に対象者主体のレクリエーション活動を行える支援者となる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに:アイスブレイキング体験 2. レクリエーション概論 3. 楽しさと心の元気づくりの理論 4. レクリエーション支援の理論:第1節 5. レクリエーション支援の方法:第1節・ホスピタリティ 6. レクリエーション支援の理論:第2節 7. レクリエーション支援の方法:第2節・アイスブレイキング 8. レクリエーション支援の理論:第3節 9. レクリエーション支援の方法:第3節・ハードル設定とCSSプロセス 10. 安全管理の方法 11. レクリエーション活動の習得・演習Ⅰ 12. レクリエーション活動の習得・演習Ⅱ 13. レクリエーション活動の習得・演習Ⅲ 14. レクリエーション支援のプログラムの立案 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の基本の理論と方法 レクリエーション・インストラクターテキスト (財)日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・演習・試験・提出物の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 ・レク・インストラクターの資格試験を兼ねる。 	

授 業 概 要

授業科目名 ピアノ I	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>保育の場での音楽活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識や技術を習得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>ピアノによる演奏技術について学びながら音楽を表現する楽しさを知る。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>基礎的な音楽理論を習得する。保育の場で使用する楽曲を正しく、音楽的に表現するための器楽ピアノの基礎技能を習得する。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置① 2 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置② 3 ピアノ実技の基礎 両手演奏① 4 ピアノ実技の基礎 両手演奏② 5 ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方① 6 ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方② 7 楽譜の読み方と演奏 大譜表① 8 楽譜の読み方と演奏 大譜表② 9 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号① 10 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号② 11 ピアノ実技のステップアップ 12 ピアノ実技のステップアップ 13 ピアノ実技のステップアップ 14 ピアノ実技のステップアップ 15 実技試験(必修課題より) 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>こどもと音楽表現 ポケットいっぱいのうた</p>		<p>豊岡配本テキスト 教育芸術社</p>	<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・実技試験の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。 ・必修課題が合格していること、実技試験が60点以上であること。
<p>【担当講師】</p> <p>濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名 憲法	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 憲法の主眼である国民の人権を保障するために権力を分立した統治機構が構築され、「国家権力の抑制」と「国民の権利・自由の保障」が確保することで、「人間の尊厳」が守られている。また、憲法は、国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。そのため、憲法が生活にどのような関わりをもつかを学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 テキストを用いて日本国憲法の全体像を理解しながら、憲法における規定を確認し、さまざまな解釈について教授する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 日本国憲法における人権規定と統治機能を理解し、国家の統治機構と、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の三大基本原理の構成を学び、憲法が生活にどのように関わっているかを考えることができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法と立憲主義・日本憲法史 2. 日本国憲法の構成と基本原理 3. 基本的人権の保障・包括的基本権と法と下の平等 4. 精神的自由権 5. 身体的自由権 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 参政権と国務請求権 9. 統治機構の基本原則 10. 国会と立法権 11. 内閣と行政権 12. 裁判所と司法権 13. 財政と地方自治 14. 憲法改正 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 豊岡短期大学テキスト『憲法』</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
文章表現	演習		佐竹 友美
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>専門学生に必要とされる基礎的学力を習得するとともに、社会人に必要とされる文章力・表現力についても学ぶ。また、保育者として適した文章表現について理解し技術と教養を磨く。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>敬語や文法、文章の書き方等について基本的な知識を学び、練習問題を行ないながら実践力を高めていく。記録やレジュメ、レポートを書く力や要点をまとめる力を身に付ける。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>基本的な日本語力を磨き、正しい敬語の使い方、手紙や記録の書き方、要点のまとめ方等を身につける。保育実習に向けて基本的な知識と技能を習得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章を正しく書く・伝える 2. 文章の基本的な書き方 3. 敬語の整理、使い方 4. 文法・文節について 5. 要約の技術・演習 6. お礼状の書き方 7. 実習日誌の書き方① 8. 実習日誌の書き方② 9. 実習日誌の書き方③ 10. 保護者との話し方 11. 電話対応・メールの書き方 12. 連絡帳の書き方 13. クラスだよりの書き方 14. ドキュメンテーションについて 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>保育者になるための国語表現 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、退出物、出席状況の総合評価。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
社会的養護Ⅱ	演習		水野 正伸
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回	15時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解に基づく社会的養護の基本的な支援について学ぶ。 ・社会的養護の実際について学ぶ。 ・社会的養護における子ども虐待防止と支援について学ぶ。 ・社会的養護における相談援助の知識と技術について学ぶ。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>授業テーマに基づき、テキストを用いてミニワークを取り入れながら学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解に基づく社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護および家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における支援計画について理解する。 ・社会的養護にかかわる相談援助の技術について理解する。 ・社会的養護における子どもの虐待防止と支援について理解する。 <p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解に基づく社会的養護－社会的養護における子どもの理解と支援の基本 2. 子どもの理解に基づく社会的養護－社会的養護における保育士等の専門性 3. 社会養護の実際－児童養護の体系と児童養護施設の概要 4. 社会養護の実際－施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際 5. 保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践－子どもの虐待への対応 6. 保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践－子どもと家族への支援 7. 保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践－社会的養護における相談援助技術の活用 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『児童の福祉を支える <演習>社会的養護Ⅱ』萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 教職論	授業の種類 講義		授業担当者 栗原 美幸
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき保育教育のビジョンを明確にし、自分が目指す教職者像の確立を図ることを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>教職者の資質、専門性、制度的位置づけ、子どもの理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携を学び、理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>教職者に求められる資質能力や教職の在り方などの基本的事項について理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育(教職)とは何か 2. 教職(保育)者に求められる資質・能力 3. 教員(保育者)養成の歴史 4. 教員(保育者)に求められる資質 5. 指導計画(保育のねらい・内容) 6. 教職(保育)者の仕事・義務・研修 7. 教職(保育)者の職場環境 8. 教職者の制度的な位置づけ 9. 教職者の任用と服務 10. 教育(保育)現場における子どもとの関わり(あそび・環境) 11. 教育(保育)現場における家庭との連携・支援・地域との連携 12. 教職(保育観)の変遷と教員(保育者)の役割 13. 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携 14. 今日的な教育課題に対応するために・よい(保育)者になるために 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>教職論 (豊岡配本テキスト)</p> <p>「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」</p> <p>(学陽書房)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、授業中に実施する確認テスト、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの保健	授業の種類 講義		授業担当者 佐藤 真理子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもの身体発育や生理機能及び運動機能、精神機能の発達と保健について理解し、さらに、子どもの疾病や事故とその予防法や適切な対応についての理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもの心身の発達について学び、子どもの健康、保健活動の意義と目的について理解する。さらに、子どもの精神保健とその課題についての理解を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子どもの健康の意味を理解し、保育実践における保健活動の意義について考えることができる。また、子どもの疾病や事故の予防とその対応の基礎的な知識を身につけ、子どもの健康と環境について理解できる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と保健の意義 2. 子どもの発育・発達と保健①身体発育・生理機能の発達と保健 3. 子どもの発育・発達と保健②運動機能・精神機能の発達と保健 4. 子どもの疾病と保健 5. 子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健 6. 子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題 7. 環境および衛生管理ならびに安全管理 8. 健康および安全の実施体制 9. 保健活動の計画および評価 10. 子どもの保健と環境 11. 子どもの疾病と適切な対応①感染症予防、乳児への適切な対応 12. 子どもの疾病と適切な対応②障害のある子どもへの適切な対応 13. 事故防止および健康安全管理①救急処置および救急蘇生法の習得 14. 事故防止および健康安全管理②災害への備えと危機管理 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>これならわかる子どもの保健演習ノート (改訂第3版追補)</p> <p style="text-align: right;">診断と治療社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐藤真理子：職歴—看護師歴20年 資格—看護師、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
こどもの発達と家庭支援	講義		石田 ひろみ
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】 それぞれの期における発達を理解したうえで、家庭の在り方、親子の関係性などを学び、多様な家庭への支援について理解する。また、特別な配慮を必要とする家庭、発達支援の必要な子どものいる家庭についても理解する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 子どもを取り巻く家庭や社会の状況が複雑になる中で、こどものみならず、家族や家庭の理解、その現状と課題について学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 子どもの発達をpushさながら、子育て家庭を取り巻く社会的状況や多様な家庭形態の理解を深め、支援にあたってのポイントを理解する</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは何か 2. 乳幼児期から学童前期にかけての発達 3. 学童後期から青年期にかけての発達 4. 成人期・老年期における発達 5. 子育てを取り巻く状況 6. 家族・家庭の意義と機能 7. 親子・家族関係の理解 8. 子育ての経験と親としての育ち 9. 多様な家庭形態とその理解 10. 特別な配慮を必要とする家庭とは 11. 特別な配慮を必要とする家庭への配慮・支援にあたってのポイント 12. 発達支援の必要な子どものいる家庭①家庭の実態とその支援 13. 発達支援の必要な子どものいる家庭②医療的ケア児を育てる家庭への支援 14. 子どもの精神保健 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援の心理学 みらい ・こどもの発達と家庭支援 豊岡テキスト 		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 石田ひろみ：職歴—小学校教諭歴1年、幼稚園教諭歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名 教育課程論	授業の種類 講義		授業担当者 栗原 美幸
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する ・教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に習得する。 ・保護者や関係機関との連携について学ぶ <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>幼児、こどもを育てる上で、大切なこと(目標)、どのような方法・手だて(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成に関する法体系や、学習指導要領(幼稚園教育要領・保育所保育指針)の変遷が理解できる。 ・教育課程・保育の基本や教育の歴史を学ぶとともに、教育をめぐる諸問題について理解できる。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性 2. カリキュラムの基礎理論 3. 日本における教育課程・各国の教育課程の変遷 4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価 5. 教育課程の法と行政 6. 学習指導要領の変遷とその特色 7. 園生活と長期・短期の指導計画 8. 教育課程・保育課程編成の実際 9. 保育の基本と実践(記録及び省察による教育・保育の質向上) 10. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム 11. 明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史 12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性 13. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷 14. 教育課程をめぐる諸問題 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>教育課程論 豊岡テキスト 「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、授業中に実施する確認テスト、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
保育内容総論	演習		佐竹 友美
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回(最終回は試験)	15時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結びつけて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに開設する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育内容の構造を理解し、保育を展開するにあたり必要となる指導計画や現代的な課題への理解、子どもの遊びと育ちについて理解を深め、舞台的な保育実践につなげることができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容総論とは 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容の捉え方 4. 乳幼児にふさわしい生活と保育内容 5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 6. 全体的な計画の作成と指導計画の作成 7. 保育の評価と保育の記録・保育内容の現代的課題について 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>保育内容総論 豊岡配本テキスト 「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
こどもの指導法「人間関係」	演習		佐竹 友美
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回(最終回は試験)	15時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもたちを取り巻く「人間関係」の在り方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりを通じた人間関係の発達についてエピソードを取り上げ解説していく。また、保育者としてどのように子どもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係性を築いていくのかを考察していく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>①保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容が説明できる。②人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる。③養育者・保育者・地域の人々など、子どもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と人とのかかわり 2. 乳幼児期における人との関わりの発達 3. 遊びのなかで育つ人とのかかわり 4. 人との関わりを育てる保育実践 5. 人との関わりを育てる保育者の役割 6. 人との関わりが難しい子どもへの支援 7. 園、家庭、地域の生活と人との関わり 8. 領域「人間関係」をめぐる諸問題 <p style="text-align: center;">単位認定試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・人間関係論(豊岡配本テキスト)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・試験、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもとミュージックⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕 音楽の楽しさを伝え、豊かな感性と表現力を育む音楽活動を援助するために、基礎的な知識と技術を習得し実践力を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 こどもの発達段階に合わせた音楽活動を展開するための音楽理論を学び、歌唱、楽器の指導、弾き歌い伴奏法に活かす方法を学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 音楽理論を習得し、音楽表現に活かすことができる。 実践的な音楽活動が展開できるようにピアノ演奏技術を向上させ、弾き歌い、伴奏ができる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽理論の基礎① 五線のしくみ 2 音楽理論の基礎② 拍子と音符、リズム 3 音楽理論の基礎③ 速度、強弱、曲想、奏法、繰り返しに関する用語・記号 4 音楽理論の基礎④ 音程 5 音楽理論の基礎⑤ 音階と調 6 音楽理論の基礎⑥ 移調 7 音楽理論の基礎⑦ 和音とコードネーム 8 音楽理論の基礎⑧ コード伴奏法(1)和声機能、展開形 9 音楽理論の基礎⑨ コード伴奏法(2)いろいろな調の和音進行、旋律のコード選択 10 こどもの歌① 歌詞とイメージから表現あそびへ(春・夏) 11 こどもの歌② 歌詞とイメージから表現あそびへ(秋・冬) 12 器楽表現① 楽器の演奏法を知り、さまざまな音色に親しむ 13 器楽表現② 楽器を用いた表現あそび、器楽アンサンブルの指導 14 音楽表現あそびの実践にむけて 15 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 子どものための音楽表現技術 萌文書林 ポケットいっぱいのおうた 実践子どものうた簡単に弾ける 144選 教育芸術社 こどもと音楽表現 豊岡短期大学配本テキスト 子どもがときめく名曲&人気曲でリトミック 自由現代社</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・授業態度・筆記試験・ 実技試験の総合評価。 2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。</p>	
<p>〔担当講師〕 濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーション I	授業の種類 演習		授業担当者 松山千種・杉田美瑛
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育実習や保育現場ですぐに役立つ児童文化財や集団遊びなどの基本的な知識を学び、実践や体験を通して保育技術を習得する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 子どもの心を豊かに育てるために効果的な教材(絵本、紙芝居、言葉遊び、伝承遊び、ペープサートなど)について体験を通して学びながら、保育者として必要な技術や知識を身につける</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 実践につながる知識、技術の習得とともに、子どもの遊びを豊かに展開するための保育者の在り方を理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童文化財について 2. 絵本の読み聞かせについて 3. 絵本を使ったコミュニケーションワークショップ 4. 集団遊び・季節に合わせた遊びについて 5. 季節に合わせた遊び・行事の計画の作成 6. 季節に合わせた遊び・行事の計画の実践 7. 季節に合わせた遊び・行事の実践の振り返り 8. リズムダンスについて 9. リズムダンス 実技① 10. リズムダンス 実技② 11. クリスマス会に向けた計画の作成 12. クリスマス会に向けた準備① 13. クリスマス会に向けた準備② 14. クリスマス会 リハーサル 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 言葉と表現力を育む児童文化 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】 松山千種:職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 ピアノⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>保育の場での音楽活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識や技術を習得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>歌唱及びピアノ等による演奏技術、伴奏の実際について学びながら音楽を表現する楽しさや喜びを知る。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>基礎的な音楽理論を習得する。保育の場で使用する楽曲を正しく、音楽的に表現するための歌唱法と、器楽(ピアノ等)の基礎技能を習得する。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 2 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 3 基礎練習、生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌い実践 4 基礎練習、季節に合わせた曲の理解と弾き歌いの実践 5 基礎練習、「ぼけっといっぱいのおうた」より(秋に関する曲)弾き歌いの実践(小テスト) 6 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 7 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 8 基礎練習、「ぼけっといっぱいのおうた」より(冬に関する曲)弾き歌いの実践(小テスト) 9 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 10 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 11 基礎練習、季節に合わせた曲の理解と弾き歌いの実践 12 基礎練習、「ぼけっといっぱいのおうた」より必修課題練習 13 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 14 必修課題、「ぼけっといっぱいのおうた」より(季節に関する曲)弾き歌いの実践(プレテ) 15 実技試験(必修課題より1曲、ポケットいっぱいのおうたより1曲弾き歌い) 			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
こどもと音楽表現 ポケットいっぱいのおうた		豊岡配本テキスト 教育芸術社	
		<p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・実技試験の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。 ・必修課題が合格していること、実技試験が60点以上であること。 	
<p>【担当講師】</p> <p>濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
保育実習指導 I A	演習		杉田美瑛・佐竹友美
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回(最終回は試験)	15時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもたちと共に日常生活を過ごすことで、子どもたちの繰り広げる生の姿に触れ、その内側から保育・養育を経験し理解を深めるための事前準備を行なう。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>保育士になりたいという意欲と若さを基礎に、実習を通して学ぶことの内容確認、記録や評価の仕方などを知る。また、現場で実際に出来る対応や技術を体得する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育実習とはどういうことなのか理解し、具体的に保育士という仕事の内容を体験するための事前準備を行なうことで目標と自信を持って実習に臨むことができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目的 2. 実習の流れと内容 3. 実習の実際-オリエンテーション依頼の電話- 4. 実習の実際-保育所・こども園実習- 5. 実習における言葉の表現 6. 保育日誌の書き方 7. 報告会 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の記録と指導案 ひかりのくに ・保育の学び スタートブック 萌文書林 <p>「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、出席状況の総合評価。 	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 保育実習 I A	授業の種類 実習		授業担当者 専任教員
授業の回数	時間数 90 時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育所及び児童福祉施設の実習を通し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所と児童福祉施設の役割や機能と保育士の職務について理解する。また、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 乳幼児の理解や保育所を含む児童福祉施設の役割や機能、また、保育士の職務等を理解するため保育所ならびに児童福祉施設において実習を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 実習を通し、子どもの発達、児童福祉施設の役割や機能、保育士の職務について理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>保育所及び児童福祉施設の実習を通して以下のことを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育所と児童福祉施設の役割や機能について理解する。 ② 保育所及び児童福祉施設の1日の流れを理解する。 ③ 子どもの観察や関わりを通して子どもの発達を理解する。 ④ 保育課程・指導計画(保育所)、支援計画(児童福祉施設)を理解する。 ⑤ 子どもの生活や遊びなどに接し、保育環境や施設の環境について学ぶ。 ⑥ 保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。 ⑦ 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ⑧ 保育士の業務内容について理解する。 ⑨ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ⑩ 保育士の役割と職業倫理について学ぶ。 ⑪ 安全及び健康管理への配慮について理解する。 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・保育所からの実習評価やカンファレンス、実習態度、実習日誌などを元に総合的に評価する。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
サポート講座 I	演習		保育専任
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
30回	60時間	1年	通年
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許取得に必要な科目のレポート、科目試験の対策等を行なう。 ・保育をする中で必要となる知識・技術等を修得する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>レポート作成や科目試験を通して幼児教育についての学びを深めるとともに、体験を通して子ども達が楽しめる遊びや行事における園での取り組みについて学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許取得に必要な科目のレポート及び科目試験に合格できるようにする。 ・実習時にピアノの弾き歌いや手遊び等の実技を行なえるようにする。 ・年間行事や安全面の配慮について理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート作成のためのガイダンスや講義、実技面での指導方法などを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成について ・科目別レポート作成・科目試験対策 ・年間行事について ・園外保育におけるの遊びや持ち物、安全面の配慮などについて ・集団遊びや手遊びの実技指導 ・素話、絵本・紙芝居の読み聞かせの実践 ・ピアノの弾き歌い ・園における避難訓練 ・信頼される保育者のためのコミュニケーションスキル 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目豊岡配本テキスト 		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、出席状況、レポート提出状況、科目試験への取り組み等の総合評価。 	

授 業 概 要

授業科目名 Welfare Time I	授業の種類 演 習		授業担当者 寺田知生・佐竹友美		
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年 1年	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】 学校生活における基本的なルールを理解するとともに、社会人としてのマナーを身につける。学校行事やクラスイベントを通じて人との交流やチームワークなど、人間的成長を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 イベントの企画・参加／個別面談／マナー、文章力など基礎教育を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・学校行事を企画、参加することで、責任感、協調性を身につけることができる。 ・学校生活や社会生活における基本的なマナー、文章力が身につく。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 保育実習に向けての準備(名札作り、実習 だよりの作成など)、実技練習やクラスイベン 23. トなどの企画・運営を行う。 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験 </td> </tr> </table>				1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.	16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 保育実習に向けての準備(名札作り、実習 だよりの作成など)、実技練習やクラスイベン 23. トなどの企画・運営を行う。 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.	16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 保育実習に向けての準備(名札作り、実習 だよりの作成など)、実技練習やクラスイベン 23. トなどの企画・運営を行う。 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業やイベントに対する取り組み意欲や授業態度(欠席、遅刻、早退を含む)</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「音楽表現」	授業の種類 演習		授業担当者 北村 年子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1・2年生	配当時期 通年
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育内容に沿ってこどもの音楽表現活動を適切に援助し、音楽を通してこどもの成長過程における豊かな人間形成を育成することをテーマとする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、歌唱訓練としてソルフェージュを行ない、音楽表現の様々な要素を基礎能力として定着させる。実技習得には、各自の習得度に応じ個別指導を行なう。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識、伝える力を習得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎演習Ⅰ課題を用いてピアノ実技およびソルフェージュの個人レッスン 2. 合理的なピアノ奏法、保育現場で必要とされるピアノ伴奏の理解と習得 表現活動への反映 3. 多種楽器による音楽表現効果の考察 幼児の声域に合わせた自然音や生活音のサウンドスケープ表現 4. 腹式呼吸による発声法の習得 音程と拍子に注目したソルフェージュ課題の学習 5. 発表会形式によるプレテスト(ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く) 6. 基礎演習Ⅱ課題を用いてピアノ実技及びソルフェージュの個人レッスン 7. 領域「表現」ねらいと内容の考察 幼児に伝える表現、音楽表現の楽しさを伝える方法の考察 8. 弾き歌いを意識したピアノ伴奏と発声法の考察 その実践 9. 主要三和音の理解 音楽表現の補助を意識した和音選択とピアノ伴奏形の習得 10. 発表会形式によるプレテスト(ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く) 11. 実践演習課題を用いて弾き歌いの個人レッスン 個々の習得度に合った伴奏法の選択とその確立 12. 調性の理解 伴奏形の学習と表現に効果的な選択法 13. 保育における音楽表現活動を通じた感性の育みの理解 音楽表現の意義を理解する 14. オーケストラ楽器の理解と考察 音楽表現への反映を学ぶ 15. 模擬保育形式による課題曲発表(互いに聴いてこれまでの成果を評価し合う) <p>試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こどもと音楽表現 ポケットいっぱいのおうた</p>		<p>配本テキスト 教育芸術社</p>	<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。
<p>【担当講師】 北村年子:職歴—フルート・ピアノ・音楽理論講師歴25年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)</p>			

授 業 概 要

授業科目名 子どもの食と栄養	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 子どもを取り巻く食生活の現状を把握し、子どもにとってふさわしい食生活の意義や保育で行われる食育の取り組みについて学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 栄養に関する基本的知識を学び、子どもが心身ともに健康な生活を営むための日々の食生活の重要な役割を理解する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 常に成長・発達をしている乳幼児期における、適切な栄養摂取や食生活の支援、食に関する保護者への支援方法を学び、保育の一環として食育の実施・推進につなげることができる</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康と食生活 2. 子どもの食生活の現状と課題 3. 子どもの発育・発達と食生活 4. 栄養に関する基本的知識 5. 献立作成と調理の基本①離乳食 6. 献立作成と調理の基本②幼児食 7. 食の衛生と安全①食中毒 8. 食の衛生と安全②食品添加物、食品表示 9. 食育の基本と内容① 10. 食育の基本と内容② 11. ライフステージ別の栄養と食生活 12. 食物アレルギーの基本的知識 13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 14. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・子どもの食と栄養 演習ブック 第2版 ミネルヴァ書房</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「環境」	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児期の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>環境とは何かを理解し、そこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例をあげて学習していく。また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育内容「環境」のねらいと内容を理解している。こどもを取り巻く様々な環境に理解と関心を持つ。保育者の役割を常に考え、保育実践力が身に付いている。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは 2. 領域「環境」の位置付け 3. 身近な環境の構成 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 5. 保育環境のデザイン 6. 保育者の3つの役割 7. さまざまな環境との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題 <p style="text-align: center;">科目試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・環境論 豊岡配本テキスト ・体験する・調べる・考える 領域「環境」 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度、課題、試験の配分割合により100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	
<p>【担当講師】 佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法(言語表現)	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>児童文化を子どもに与えるものとしてではなく、子どもによって生み出されるものとして捉える。子ども達が言葉と言葉を表現する力の大切さを大切にし、保育者が子どもの遊びに積極的に関わるためのかかわり方を身につける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>理論を踏まえた上で、保育のばにおいて役に立つ技術を身に付けることと、子ども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野に入れ学習を行なう。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>児童文化に関する理論を理解し、保育技術として、絵本や紙芝居の読み聞かせなど場面を通してのかかわり方や提供の仕方ができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもと文化のかかわり 2. 伝統文化1(折り紙の基礎) 3. 絵本1(こどもの絵本・種類) 4. 絵本2(読み聞かせの留意点・演習) 5. 絵本3(手作り絵本) 6. 紙芝居1(歴史・特徴・演じ方の方法と留意点) 7. 紙芝居2(意義・選び方・歴史・語り聞かせの方法と留意点) 8. まとめ・試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・保育実践に生きる「言語表現」 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・演習・試験・提出物の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】 佐竹友美:職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの健康と安全	授業の種類 演習		授業担当者 小林 栄
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもの健康及び安全に関する保健活動について学び、子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について理解する。また、こどもの疾病や事故とその予防及び適切な対応について学びを深め、実践に結び付けられるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもの保健活動の計画および評価のための健康状態の観察技術、また、子どもの健康増進、発達、安全管理のための環境整備、子どもの疾病への適切な対応、予防、救急時の対応などについて学ぶ。また子どもの健康福祉や母子保健などの地域活動などについて理解し、家庭、地域、専門機関との連携の在り方を学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 ・関連するガイドラインや近年のデータ等に基づき、保健の観点から適切な対応について具体的に理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2. 保育における健康及び安全の管理 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 4. 感染症対策 5. 保育における保健的対応①3歳未満児への対応、個別的な配慮を要する子どもへの対応 6. 保育における保健的対応②障害のある子どもへの対応 7. 健康及び安全の管理の実施体制 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>よくある子どもの病気・けが・きずの対応マニュアル ひかりのくに これならわかる！子どもの保健演習ノート改訂第3版 診断と治療社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】</p> <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
特別支援・保育概論	演習		松山 千種
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	2年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>多様な障害の特性と、発達の状態や個性に応じた特別支援教育・保育の必要性を理解する</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>障害の特性を理解し、個々の発達をうながす生活や遊びの環境を整える適切な援助や、障害児を持つ家庭への支援、協力機関との連携を学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>障害を理解し、学んだ保育の知識や技術を活かして、子どもがそれぞれ持っている個性に応じた援助を考える力を身につける</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育・特別支援教育とは 2. 障害児保育・特別支援教育の基本 3. 障害の理解と保育①知的障害、聴覚障害 4. 障害の理解と保育②肢体不自由、脳性麻痺とは 5. 障害の理解と保育②重症心身障害、医療的ケアとは 6. 障害の理解と保育②肢体不自由、脳性麻痺とは重症心身障害のある子どもの保育 7. 発達が気になる子どもの理解と保育 8. 障害の理解と保育③自閉症スペクトラム 9. 障害の理解と保育③学習障害、注意欠如・多動性障害 10. 子ども理解に基づく計画の作成 11. 保護者支援と今後の課題 12. 家庭や関係機関との連携 13. 職員間の協力関係 14. 早期発見と就学に向けての支援 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・実践に活かす障害児保育・特別支援教育</p> <p style="text-align: right;">フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p> <p>・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種：職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 子育て支援	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>具体的な事例を基にした演習を中心に行い、学生自身が事例をもとに話し合い、グループ討議、クラスでのまとめと展開しながら授業を進め、一つ一つ紐解きながら、理論と演習を通して理解していく。1つお考えに固執することなく、多角的な視点を持つことが出来るように意識しながら取り組む。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育士の行う子育て支援についてさまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を実践事例などを通して具体的に理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに・子どもの保育とともにを行う保護者の支援 2. 日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3. 保護者や家族の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4. 子どもおよび保護者の状況・状態の把握 5. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 6. 職員間の連携・協働 7. 保育所等における支援 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・子育て支援 ・子どもはこう育つ！</p> <p style="text-align: right;">中央法規 赤ちゃん和妈妈社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・提出物の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 ピアノⅢ	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝			
授業の回数 15回(学期ごとに試験あり)	時間数 30時間	配当学年 2年	配当時期 前期			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育の場での音楽活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識や技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>歌唱及びピアノ等による演奏技術、伴奏の実際について学びながら音楽を表現する楽しさや喜びを味わう。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>基礎的な音楽理論を習得する。保育の場で使用する楽曲を正しく、音楽的に表現するための歌唱法と、器楽(ピアノ等)の基礎技能を習得する。</p>						
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>1年前期</p> <p>1. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置1.</p> <p>2. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置2.</p> <p>3. ピアノ実技の基礎 両手演奏①</p> <p>4. ピアノ実技の基礎 両手演奏②</p> <p>5. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方①</p> <p>6. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方②</p> <p>7. 楽譜の読み方と演奏 大譜表①</p> <p>8. 楽譜の読み方と演奏 大譜表②</p> <p>9. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号①</p> <p>10. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号②</p> <p>11. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>12. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>13. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>14. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top; text-align: center;"> <p>1年後期</p> <p>7. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>2年前期</p> <p>1. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習</p> <p>2.</p> <p>3.</p> <p>4.</p> <p>5.</p> <p>6.</p> <p>7.</p> <p>8.</p> <p>9.</p> <p>10.</p> <p>11.</p> <p>12.</p> <p>13.</p> <p>14.</p> <p>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</p> </td> </tr> </table>				<p>1年前期</p> <p>1. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置1.</p> <p>2. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置2.</p> <p>3. ピアノ実技の基礎 両手演奏①</p> <p>4. ピアノ実技の基礎 両手演奏②</p> <p>5. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方①</p> <p>6. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方②</p> <p>7. 楽譜の読み方と演奏 大譜表①</p> <p>8. 楽譜の読み方と演奏 大譜表②</p> <p>9. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号①</p> <p>10. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号②</p> <p>11. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>12. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>13. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>14. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</p>	<p>1年後期</p> <p>7. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習</p>	<p>2年前期</p> <p>1. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習</p> <p>2.</p> <p>3.</p> <p>4.</p> <p>5.</p> <p>6.</p> <p>7.</p> <p>8.</p> <p>9.</p> <p>10.</p> <p>11.</p> <p>12.</p> <p>13.</p> <p>14.</p> <p>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</p>
<p>1年前期</p> <p>1. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置1.</p> <p>2. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置2.</p> <p>3. ピアノ実技の基礎 両手演奏①</p> <p>4. ピアノ実技の基礎 両手演奏②</p> <p>5. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方①</p> <p>6. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方②</p> <p>7. 楽譜の読み方と演奏 大譜表①</p> <p>8. 楽譜の読み方と演奏 大譜表②</p> <p>9. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号①</p> <p>10. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号②</p> <p>11. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>12. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>13. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>14. ピアノ実技のステップアップ</p> <p>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</p>	<p>1年後期</p> <p>7. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習</p>	<p>2年前期</p> <p>1. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習</p> <p>2.</p> <p>3.</p> <p>4.</p> <p>5.</p> <p>6.</p> <p>7.</p> <p>8.</p> <p>9.</p> <p>10.</p> <p>11.</p> <p>12.</p> <p>13.</p> <p>14.</p> <p>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>こどもの指導法「音楽表現」 ポケットいっぱい<u>のうた</u></p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>豊岡配本テキスト 教育芸術社</p> <p>出席状況・授業態度・実技試験の総合評価。 2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。 必修課題が合格していること。</p>				
<p>【担当講師】</p> <p>濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>						

授 業 概 要

授業科目名 保育実習指導 I B	授業の種類 演習		授業担当者 小林 栄
授業の回数 8回	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習の意義や実習施設の概要などを理解し、自らの実習課題を明らかにする。 ・実習の振り返りを通して、新たな課題や学習目標を明確にしていく。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>テキストを用いながら「施設実習の意義」「実習施設の種別と概要」理解し、実習計画を作成していく。また、実習を振り返り実習報告を行ない、自身の課題や学習目標を整理する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要や対象者、保育士の役割を理解する。 ・実習での学びと課題を整理し、今後につなげる。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習の意義 2. 施設実習の基本的理解 3. 実習施設の種別と概要① 4. 実習施設の種別と概要② 5. 実習までに身につけておくこと 6. 実習を振り返る—実習報告① 7. 実習を振り返る—実習報告② 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度(提出物等を含む)、実習に向けての取り組み姿勢、実習報告内容、試験などを総合的に評価する。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 保育実習指導Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育所の実習を通し、乳幼児への理解を深めるとともに保育士の役割や機能と職務について理解する。また保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解し保育を実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 乳幼児の理解及び保育所の役割や機能、保育士の職務などを理解し、具体的な指導計画立案の手順や内容を知る。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 実習を通し、子どもの発達及び保育所の役割や機能、保育士の職務について理解する。また、部分実習での体験と学びや実習指導案の書き方など、実際の指導を通して保育士としての必要な知識や力を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者になるために 2. 実習から学ぶ教育・保育の実態 3. 実習の保育日誌 4. 部分実習指導計画案① 5. 部分実習指導計画案② 6. 部分実習指導計画案③ 7. 報告会 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・実習の記録と指導案 ひかりのくに</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】 佐竹友美:職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
乳幼児保育Ⅱ	演習		松山 千種
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回(最終回は試験)	15時間	2年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児保育の全体像を理解する知識と実践力を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>乳幼児保育Ⅰの基本を振り返りながら乳幼児の発達と生活の内容をより理解し、演習を通して実践力を養っていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>乳幼児期の発達のプロセスとその意義について事例を通して考え、乳幼児・家庭・保育者の関わりについて理解し、保育者の援助の在り方を考えることができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践編1(朝の受け入れ) 2. 実践編2(食事) 3. 実践編3(睡眠) 4. 実践編4(排泄) 5. 実践編5(着脱・清潔) 6. 実践編6(遊び) 7. 実習編7(午後のお迎え・お帰り) 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>アクティブラーニング対応 乳幼児保育Ⅱ 萌文書林</p> <p>ここがポイント！3法令ガイドブック-新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解 フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こども家庭支援論	授業の種類 講義		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子育てにおける「家庭支援」の背景や必然性および目的を理解し、その方法と今後の課題を考察して、実践に活かすことができるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>授業毎にテーマを設定し、読み取り、発表という流れの中で、クラス全体で共有し教科書の理論と結びつけていく。また、子育て支援の場面を実際に実演し、理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子育ての環境とそこを取り巻く関係にかかわる内容をを知り、自分の回りにいる子どもたちの為に積極的に保護者や関係機関や地域の人々との繋がりを作っていこうという気持ちになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義 2. 家庭の機能 3. 社会の基礎単位としての家庭 4. 保育士などが行う家庭支援の原理 5. 現代の家庭における人間関係 6. 家庭生活を取り巻く社会的状況 7. 男女共同参画社会とワークライフバランス 8. 子育て家庭の支援体制 9. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 10. 子育て支援サービスの概要 11. 保育所における家庭支援 12. 子育て支援と保護者の関係作りへの支援 13. 地域の子育て家庭への支援 14. 子育て支援サービスの課題 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・児童の福祉を支える家庭支援論 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・試験・提出物の総合評価</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの理解と援助	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 こども一人ひとりの心身の発達を理解したうえで、こどもを理解するために、保育者に求められる援助の在り方を考える</p> <p>【授業全体の内容の概要】 リスクマネジメントや特別支援教育などの演習課題で、これまでの学びを整理、再確認し学びを確かなものとしていく</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育現場に立つ前にこれまでの学びを振り返り、専門職としての自覚を持つ</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもを理解すること 2. 保育におけるこども理解の方法 3. 保育におけるこども理解の実際 4. 保育の環境の理解と構成 5. こどもの集団での育ち 6. こどもを理解するための観察・記録・省察・評価 7. 保護者、職員間の情報共有 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・こども理解と援助 演習ブック ミネルヴァ書房 ・こどもの理解の理論及び方法 ドキュメンテーション(記録)を活用した保育 萌文書林</p> <p style="text-align: right;">フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 ミュージックケア	授業の種類 演 習		授業担当者 宮川 深雪
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15 時間	配当学年 2年	配当時期 後 期
【授業の目的・ねらい】 保育園や幼稚園等の現場で、保育の一環として音楽療法の概要を学び、ミュージック・ケアの理論と技術を身につける。支援者として心のこもった実践ができるようにする。 【授業全体の内容の概要】 1.ミュージック・ケアの理論を学ぶ。2.メソッドの基本曲を中心に目的と技術を習得する。 3.対象者のグループカウンセリング、心身の発達に即した保育を習得する。 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 現場で、即、実践につながるような技術と支援ができるようになる。			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 保育・幼稚園コース 1 ミュージック・ケアの理論と実際 2 楽曲習得①と実践プログラム 3 楽曲習得② 4 楽曲習得③ 5 楽曲習得④ 6 楽曲習得⑤ 7 楽曲習得⑥とまとめ 8 保育・幼稚園コース試験			
【使用テキスト・参考文献】 『ミュージック・ケア その基本と実際』 宮本啓子 『だれでも・どこでも・いつでも』 磁場の会 『ミュージック・ケア 実技編』 日本ミュージック・ケア協会		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・実技試験・レポート提出・受講態度により評価する。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。	
【担当講師】 宮川深雪：職歴—ミュージックケア指導者歴19年 資格—介護福祉士、社会福祉士、保育士、介護支援専門員、日本ミュージック ケア協会認定指導者			

授 業 概 要

授業科目名 保育・教職実践演習	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 これまでに学んできた知識、技術と共に、実習を通じて得た力を合わせて確かな実践的指導力を身につける</p> <p>【授業全体の内容の概要】 リスクマネジメントや特別支援教育などの演習課題で、これまでの学びを整理、再確認し学びを確かなものとしていく</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 保育現場に立つ前にこれまでの学びを振り返り、専門職としての自覚を持つ</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 履修カルテの記入 2. 学級経営について 3. 学級経営における臨床場面での教師の対応について 4. 事例研究 保育現場での対応 5. 特別支援教育 6. 幼保小連携への対応と連携 7. 保育指導案の作成 8. 履修カルテの記入・単位認定試験 9. 保育の形態について 10. 諸外国の保育方法 11. 協同的な学びへのプロセス 12. カリキュラムデザイン 13. バーチャル園のパンフレット作成 14. バーチャル園のパンフレット作成・発表 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 これまでの学びと保育者への歩み わかば社 ・保育・教職実践演習 豊岡テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			